

2013.10.12

文化をつなぐ橋づくり ―学生による実践の試み―

1) まりまりのお芝居を介した交流支援

A 日本・ブラジルお芝居出前プロジェクト

(プロジェクト監修者 池上重弘)

1 プロジェクトの概略

お芝居デリバリーまりまりとのコラボにより、多文化共生の交流支援を行う。

(1) 浜松での交流支援

中学校区の公立中学校と外国人学校をつなぐ。

公立学校、外国人学校、公民館をつなぐ。

(2) 日本とブラジルの交流支援

まりまりのお芝居を観た日伯両国の人たちがメッセージを交換。

2013年度に静岡文化芸術大学で寄せ書き展示会。

(3) ブラジルでの交流支援

サンパウロ州内の町で日本語学校と公立学校をつなぐ。

ブラジル日系人社会の高齢者と子どもたちをつなぐ。

2 お芝居デリバリーまりまりとは

2005年設立の俳優・音楽家・舞踏家の集団。

普段は劇場に来ることができない、あるいは来ない層に向けお芝居上演、8人のメンバーがその時々々の趣旨に沿って集う(福祉施設、学校、お祭り等)。

昔話メドレー(短い演目を複数上演)。

一見すると喜劇風、声帯模写月パントマイムのようにも見えるが、

昔話に独特の解釈を加え、文化の壁を越え普遍的にアピール。

身体と声だけで豊かな表現、観客との近さ、インタラクションに特色。

海外公演の経験も豊富(イギリス、ドイツ、フランス、メキシコ等)。

3 プロジェクトの経緯

2010年度

路上演劇祭 Japan in 浜松 2010 にまりまりが出演、池上と出会う。

路上演劇祭シンポジウムでもまりまりが登壇、デモンストレーション。

トライアルとして「多文化共生・実験教室」。

まりまりのお芝居が持つ「つなぐ力」を多文化共生にどう活かすか？

2011年度

日伯交流協会の理事会（5月）、例会（6月）でまりまり上演。
静岡文化芸術大学で学生向けワークショップとお芝居会（6月）。
ブラジルでのプレ公演（8月～9月の約2週間）。
浜松市内の長上地区での活動も開始（与進中学校、E A S、公民館）。

2012年度

浜松市内の長上地区での活動が本格展開、本学学生も参画。
ブラジル本公演（8月～9月の約4週間）
ニッケイ新聞の全面的サポートを受け、多くの寄せ書きを持ち帰る
公演回数 38回（公演29回、WS6回、デモンストレーション3回）
総観客数 2,650人（観客数+ワークショップ参加者数）
A群 日系人のいる場所（学校、施設、県人会等）
B群 ブラジル人のいる場所（学校、施設、幼稚園等）
C群 日系人とブラジル人の交わる場所（広場、イベント等）

4 成果

2011年度のブラジルでのプレ公演以降、主として浜松市内での公演の折に、プロジェクト趣旨を説明し観客から寄せ書きを書いてもらった。
2012年度の本公演では日本で書かれた7箇所分の寄せ書きを持参、展示
ブラジルでの公演時に「まりまりのお芝居を観た者どうしのメッセージが地球の反対側に届けられる」と趣旨説明し、15枚の寄せ書きを得た。

ブラジルの人々にとって・・・

劇場に足を運ぶことのない一般的な市民や子どもが日本文化を知る機会。

日本の人々にとって・・・

ブラジルからの寄せ書きを読むことにより、ブラジルや日系人コミュニティに対する日本人市民の理解が深まる機会。

5 課題と展望

寄せ書きのコメントの多くがまりまりのお芝居に対する評価に終始。
相手国の人々に向けたメッセージは少数。
ブラジル公演には多額の費用が必要、今後の継続は困難。
2年間のプロジェクトの成果を何らかの形で出版し公表したい。